

猪俣猛フォース

猪俣 猛(Dr) 兵庫県出身。16歳でデビューし、20歳で上京。21歳で「スイングジャーナル」誌の新人賞に輝き、「ウエストライナース」「サウンド・リミテッド」「ザ・サード」「フォース」などのバンドリーダーを務める。ジャンルを問わないオールラウンドプレイヤーとして第一線でプレイするかたわら、教育面での活動も盛んで、'76に「リズム・クリニック・センター」を設立。国外での活動も盛んで、'94「ジャパン・ジャスト・ジャズ・オールスターズ」を率いてニューヨーク公演を行い、カーネギーホール、アポロシアターなどで大喝采を浴びた。'95、ジャズ界で個人に与える最高の栄誉「南里文雄賞」を受賞。また、シンフォニック・ジャズ・オーケストラを結成し、'97、Bunkamura オーチャードホールにおいてコンサートを行う。'96より、前田憲男氏を音楽監督に「THEKING」を結成。浜離宮朝日ホールに於いて日本のジャズの歴史を記録するために、「キング・オブ・ジャズ - 21世紀へ贈る」と題し、音と映像の収録を同時進行させたコンサートを2000年12月まで全20回シリーズで行う。21世紀へ贈る貴重なジャズ史を記録し、幅広い分野から高い評価を得ている。同年には音楽生活50周年を迎え、朝日新聞社主催による氏の記念コンサート「リズム&ジャズ」を行っている。現在、(株)オール・シー・シー代表取締役、(社)日本音楽家協会常務理事、NHK文化センター主任講師、ヤマハ専属モニター、ジルジャン契約モニターを務める。'96著書「カーネギーへの道」を出版。

青木 弘武(P) 滋賀県出身。大阪音楽大学卒業後プロデビュー、大隅寿男トリオに参加後独立し、現在都内ライブハウスを中心に活躍中。今までにロン・カーター、ジミー・スミスなどと共演者して、好評を博している。

加藤 真一(B) '85ドラムスの猪俣猛トリオに抜擢され上京、池田篤、椎名豊を擁した自己のカルテットではオリジナル曲を中心に演奏する。'91には全曲オリジナルの自己のアルバムを発表。'92永住権取得を機にニューヨークに移住。シーラ・ジョーダン、ヘレン・メリル、アキラ・タナ率いるアジア・アメリカンジャズアンサンブル、グレッグ・マーフィートリオ、アーニー・ローレンスグループなど、さまざまなセッションで活躍。'94猪俣の率いるJJASのツアーに参加、カーネギーホールで演奏。その後メキシコを楽旅。'94年、マイク・スターンを迎えてのリーダーアルバムをリリース。'95帰国。辛島文雄トリオ、'96、木住野佳子トリオで全国ツアー。現在、自己のグループをはじめ、大友義雄グループ、市川秀男トリオ、西直樹トリオ。

浜田 均(Vib ヴィブラフォン)

1953年北海道富良野に生まれる。6歳からマリンバを習い13歳まで続ける。15歳、高校2年生の時ジャズが好きになり、マリンバを使ってジャズの練習を始める。高校の軽音楽クラブでジャズバンドを作って演奏も始める。

東京都立大学理学部物理学科に進学するが、その傍ら早稲田大学モダンジャズ研究会に参加して、ヴァイブラフォンで演奏活動を始める。その後どんどんジャズにのめり込んで行き、卒業後、音楽の道を志す。そのために、東京芸術大学別科打楽器に進学して、有賀誠門、高橋美智子に師事する。修了と同時に、猪俣猛のグループ「フォース」でプロデビューし、4年間日本全国、アメリカ、シンガポールでコンサートを行い、7枚のレコードをリリースして、ジャズヴァイブラフォン奏者として高い評価を得る。グループ解散後は、フリーランスミュージシャンとして、多数のセッション、レコーディングに参加する。



猪俣 猛



青木弘武



加藤真一



浜田均

小林桂 (Vo)

1979年5月9日生まれ。両親、祖父ともにジャズ・ミュージシャンという音楽一家に生まれる。

5歳よりクラシック・バレエを始め、英国ロイヤル・バレエ・アカデミーの世界共通検定試験で最年少、最高点を獲得。

15歳の頃からヴォーカリスト、ドラマーとして都内のライブ・シーンで活動を開始。

16歳の時、阪神大震災チャリティー・コンサートでハービー・ハンコックら世界の一流アーティストと同じステージに立つ。翌年、その一環として地元高校生ビッグバンドと共演したミニ・アルバム「K列車で行こう~17歳のジャズ」(ユニコム)を発表。

18歳で初のリーダー・アルバム「18/P.S.アイ・ラヴ・ユー」(ネクスト・レコード)を発売。高い評価を受

ける。

1999年12月、本格的メジャー・デビューとなるアルバム「ソー・ナイス」(東芝EMI)を発表。大ベストセラーとなる。各マスコミにも取り上げられ大評判を博す。スイングジャーナル誌においては4ヶ月間、ヴォーカル・チャートの第1位を続け、年間のヴォーカル・チャートのNo.1も断トツで獲得。

2000年2月、ブルーノート・クラブ(東京/大阪/福岡)を含む「ソー・ナイス発売記念ツアー」を実施。各地ともチケットはSOLD OUTでこのツアーは伝説化される。同月、ミュージカル「ミラクル」主演。

3月、台湾EMIから「ソー・ナイス」発売。4月に台湾にてプロモーション実施。現地で約40本近くのメディア(TV・ラジオ・雑誌)に取り上げられる。

9月には韓国EMIからも発売となり、韓国でもプロモーションを実施する。同月、本人が歌う資生堂「アスプリール」(山口智子出演)のCMソング「スマイル」のオンエアがスタート。

10月、「ジャスト・ユー」発売。10~3月まで、日本全国縦断「ジャスト・ユー・ツアー」敢行。各地のホールで熱狂的に迎えらる。

11月、2000年度日本ジャズ・ヴォーカル賞大賞を最年少で受賞。

12月、シンガポールで初の単独海外公演を実施。シンガポールEMIからも「ジャスト・ユー」発売。

2001年1月、スイングジャーナル誌主催ジャズ・ディスク大賞「ニュー・スター賞」を受賞。

4月、神宮球場のヤクルト巨人戦で「君が代」独唱。

5月、手塚治虫原作、大友克洋脚本の超大作アニメ映画「メトロポリス」の主人公(ケンイチ)で声優に挑戦。

6月、TBS系-TV「ブロードキャスター」オープニング・テーマ「ハウ・ハイ・ザ・ムーン」がスタート。

9月、初のNY公演(ブルーノートNY)を実施。アルバム「ミスティク」発売。台湾、香港、シンガポールに続き中国でも発売になる。同時に初の単行本も発表。

丸井のメンズ・ブランド「ピサルノ」のモデルを始める。

10月、初のクリスマス・アルバム「ワンダーランド」発売。全国縦断「MISTY K」ツアー開始。

1月、同アルバムはスイングジャーナル誌ジャズ・ディスク大賞「ヴォーカル賞」受賞。さらに1年間で最も売れたジャズ・アルバムとして、日本ゴールド・ディスク大賞「JAZZ ALBUM OF THE YEAR」を受賞。

4月、札幌NORTH WAVEでDJをつとめるレギュラー番組「SO NICE」がスタート。

スイングジャーナル誌読者人気投票「男性ジャズ・ヴォーカル部門」で3年連続第1位に選ばれる。

7月、昨年に続きTBS系-TV「ブロードキャスター」のオープニングが「ナイト・アンド・デイ」になる。エンディング・テーマに「星に願いを」(4月~)「スマイル」(7月~)が選ばれ、3曲の番組タイアップがスタート。

9月、最新作「ソフトリー」発売。

